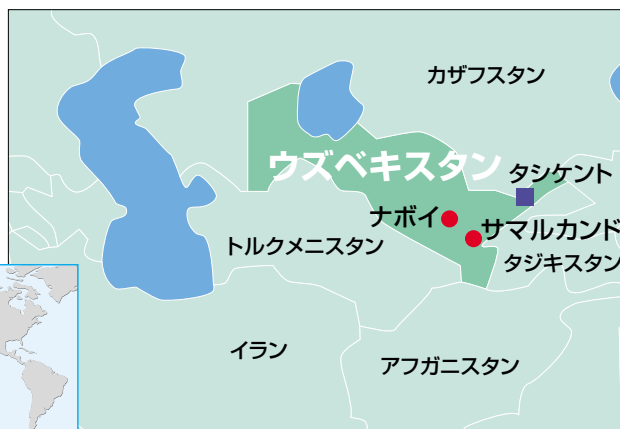


中部母子病院医療機材整備計画



実施地域 サマルカンド州、ナボイ州

1. プロジェクト要請の背景

ウズベキスタンでは、医療施設の多くが旧ソ連時代の機材を使用していることから、老朽化が著しく一部は使用不能となっているなど、機材の量的・質的な不足が問題となっている。さらに、患者の医療施設に対する信頼度は低く来院の遅れから手遅れになるケースが多々あり、致死率を高める原因となっている。

ウズベキスタン政府は、独立以来母子医療に重点を置いた医療サービスの拡充を試みてきたが、財政的制約に直面し医療レベルの向上が進んでいないのが現状である。このため、同政府は「中部地域母子病院医療機材整備計画」を策定し、サマルカンド、ナボイ両州にある5か所の中核病院の産科、小児科の医療機材の購入について、我が国に対し無償資金協力を要請した。

2. プロジェクトの概要

(1) 協力期間

1997年度

(2) 協力形態

無償資金協力

(3) 相手側実施機関

保健省母子保健局

(4) 協力の内容

1) 上位目標

対象地域の母子保健医療水準が向上する。

2) プロジェクト目標

対象とした病院の医療レベルが向上する。

3) 成果

- 5か所母子病院に産科・新生児科・小児科医療機材が整備される。
- 医療機材の維持管理を行う体制が整備される。
- 新生児科・小児科の治療診療体制が整備される。

4) 投入

日本側

E/N 供与限度額 6.76 億円

ウズベキスタン側

施設

3. 調査団構成

黒子 弘一 JICA 企画調査員

Mr. Sarvar A. Gulyamov JICA ウズベキスタン事務所

Dr. Shukhrat N. Artikov コンサルタント

Dr. Alijan Khalikovich Dadajanov ウズベキスタン保健省

4. 調査団派遣期間（調査実施時期）

2000年10月25日～2000年10月26日

5. 評価結果

(1) 妥当性

本プロジェクトは、ウズベキスタンが1991年の独立以来推進してきた医療サービスの普及という政策と整合性をもつ。また、我が国は対ウズベキスタン支援において「社会セクターの再構築」を援助重点分野としており、本プロジェクトはこれに合致す

る。

また、機材は、地元医師のニーズに基づいて選択されていることから、本プロジェクトの妥当性は高く評価される。

(2) 目標達成度

プロジェクト対象病院の母子関連医療施設は、ウズベキスタン側により機材の維持管理体制を含めて整備され、機材の使用方法的研修も実施されている。また、供与機材を使うことによって診断及び治療時間が短縮されるなど、医療レベルの向上が認められることから、プロジェクト目標は達成されたと評価できる。

(3) 効率性

機材は日常的に使用されている。機材の使用方法的研修は本プロジェクト対象病院の医療従事者だけでなく、ウズベキスタン内の医療従事者が1人でも多く機材を使いこなせるよう対象を広く設定して実施された。このように研修対象者を国内に拡大したことは、効率性が高めたと評価できる。

(4) インパクト

対象とした病院の医療レベルが向上した結果、患者が病院で過ごす期間がプロジェクト実施前の数日から数時間に短縮され、母子の死亡率も低減した（乳児死亡率は1997年の1,000人に25人から2000年15人にまで低下）。患者の居住地近辺で近代的医療が受けられるようになり、遠方の病院に行くための費用が削減された。また、低所得者層には無償で医療サービスが提供されるようになり、サマルカンド及びナボイ両州住民の生活水準の向上に役立っている。

(5) 自立発展性

本プロジェクトの対象となった病院の運営資金は、いずれもウズベキスタン政府により支給されている。機材の維持管理についても、同国保健省が資金、人材、物資調達面で協力することとしている。以上より、本プロジェクトの自立発展性は高いと評価される。

6. 教訓・提言

(1) 提言

終了時評価時点では問題がなかったものの、ウズベキスタン側は、今後、供与機材の老朽化に際して、



超音波診断装置

機材維持管理体制を強化する必要がある。具体的には、機材の維持管理に関する研修を継続的に行い、機材の維持管理をできる人材の数を増やすとともに、すでに技術を習得した医師の技術向上に努めるべきである。このため、日本で少人数の指導者を対象とした研修を実施すること、また、タシケントやモスクワから専門家を招待し、サマルカンド、ナボイ両州で広く研修を行うことが望ましい。

7. フォローアップ状況

機材を調達したサマルカンドの病院には青年海外協力隊員を2名派遣予定（2002年12月）である。